



西新潟中央病院

NST NEWS 第33号

NST : Nutrition Support Team

発行日：2016年10月3日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線1303

NST委員会からのお知らせ ～第3回 高齢者の栄養と摂食を支える研究会開催報告～

先月9月22日の秋分の日、「新潟高齢者の栄養と摂食を支える会」の第3回研究会が新潟テルサにて開催されました。その内容についてご報告させていただきます。

1. パネルディスカッション「高齢者の栄養管理と摂食嚥下に関わる職種間連携と課題」

第1部では介護支援専門員、言語聴覚士、摂食嚥下認定看護師、管理栄養士によるパネルディスカッションが行われました。各パネリストが多職種連携、施設間連携に関する発表を行い、その後提示された誤嚥性肺炎を繰り返す症例に対する症例検討が行われました。フロアの参加者同士の討議も非常に盛り上がり、時間が不足するほどでした。



齋藤先生による開会の挨拶



満員の会場



症例検討の様子

2. 特別講演「地域における食支援 ～食形態連携を通じて～」

日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長 菊谷 武先生

第2部では摂食嚥下において著名な菊谷先生に御講演いただきましたので、一部紹介いたします。

・地域で食べるを支える

多くの患者が咀嚼障害、嚥下障害を抱えながら地域で暮らしており、なにを（食内容、形態）どのように（姿勢、介助法）食べるかの情報が必須。⇒「**食べるを支える**」ホームページの開設

・在宅療養の継続に関連する因子の検討

介護老人保健施設の退所者707名のうち、1年後も在宅療養を継続している者はわずか54名（8%）。特に退所後3ヶ月以内に在宅療養を中止した者は、「**ペースト食以下の食形態**」「**うがいのできない口腔ケア全介助**」の者が多かった。

・「嚥下機能」だけではない「咀嚼力」の重要性

咀嚼力＝咬合支持×口の力強さ、巧みな動き×認知機能

口腔機能（奥歯の噛み合わせや咀嚼運動）の評価が重要。



菊谷先生の講演

（文責：栄養管理室 澤田周矢）